

魚介類アレルギーの解明と検査法を開発し、受賞 塩見一雄 東京海洋大学 教授

遠山椿吉記念 第 2 回 食と環境の科学賞 授賞式、2 月 8 日開催！

財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団こころとからだの元氣プラザ

財団法人東京顕微鏡院と医療法人社団こころとからだの元氣プラザは、公衆衛生の領域において、先駆的かつグローバルな視点で優秀な業績をあげた研究者の顕彰制度「遠山椿吉（とおやまちなきち）賞」第 2 回授賞者に、魚介類のアレルギーの解明と検査法を開発した、東京海洋大学 海洋科学部 食品生産科学科 塩見一雄教授を決定しました。

また、特別賞として、1970 年代から蓄積された生体試料バンクの血液・母乳・食事を用い難分解環境汚染物質の長期モニタリングの研究を行ってきた、京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野 小泉昭夫教授を決定しました。

授賞式・記念講演は、平成 23 年 2 月 8 日（火）、都内で関係者を招き開催いたします。

授賞理由：

塩見氏は、わが国の魚介類消費量の多さに着目し、卵や乳製品に加えて魚介類も重要なアレルギー原因であるとの予想のもとに 1990 年代中ごろから魚介類アレルギー研究を開始。その予想は後の厚生労働省の食物アレルギー実態調査で明らかになったものの、当時は魚介類アレルギーに関する知見が極めて少なかったのが実情でした。

塩見氏は魚介類の食物アレルギーによる健康危害防止を目指して先見的に取り組み、食品衛生の観点からアレルギーの同定および分子生物学的性状の解明、アレルギー検査法の開発、アレルギー低減化に数多くの成果を挙げました。その成果は食物アレルギー予防とアレルギー患者の QOL 向上に多大な貢献を与えたものとして、このたび授賞を決定いたしました。

小泉氏は、難分解汚染物質について、生体試料バンクを構築し 1970 年代からの食事、母乳、血液を用いて系統的かつ継続的にモニタリングを行いました。汚染の進行を証明したこれらの研究活動は、国際的に高く評価されている点、わが国の環境施策に多大な貢献を与え、大阪府の環境汚染源対策に実績を挙げた点などが評価され、特別賞授賞を決定いたしました。

本賞の趣旨：

創業者生誕 150 年を記念して創設した本賞は、公衆衛生の領域において、ひとびとの危険を除き、命を守るために、先駆的かつグローバルな視点で優秀な業績をあげた個人または研究グループを表彰します。平成 22 年度は、生活環境衛生と食品の安全を重点課題として募集・選考しました。

遠山椿吉とは：

遠山椿吉は、明治時代に、日本で初めて臨床検査の専門機関「東京顕微鏡院」を創立し、公衆衛生に力を尽くした細菌学者。初代東京市衛生試験所所長を兼任し、東京に安全な水道水の供給を実現して伝染病予防に努め、予防医療を提唱して健康診査を実施しました。

報道機関からのお問い合わせ先：

財団法人東京顕微鏡院 公益事業室 担当 三橋（みつはし）TEL03-5210-6651

メール：mitsu@kenko-kenbi.or.jp

ホームページ：http://www.kenko-kenbi.or.jp/ http://www.genkiplaza.or.jp/